

1. 実況上の着目点

- ① 高気圧が西日本付近にあってゆっくり西へ移動。日本付近は高気圧に覆われ広く晴れているが、下層暖湿気の影響で南西諸島周辺の海上と東日本では、局地的に激しい雨を解析。東日本では雷を検知。
- ② 500hPa5700m付近のトラフに対応し、低気圧がアムール川中流付近にあって、東北東進。
- ③ 小笠原近海に発達する熱帯低気圧があって、北西進。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の高気圧は、4日にかけて西日本にほとんど停滞。その後は高気圧は不明瞭になるものの、引き続き西日本は高圧部となる。南西諸島、西～東日本、東北地方では5日にかけて、晴れて気温が上昇し猛暑日となる所がある。熱中症などの健康管理に注意（熱中症警戒アラート参照）。一方、気温の上昇や下層暖湿気の影響で大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴った激しい雨や局地的には非常に激しい雨が降り大雨となる所がある。西～東日本、東北地方では5日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意。また、全国的に5日にかけて、落雷や突風、降ひょう、急な強い雨に注意。局地的には竜巻などの激しい突風に注意。なお、上空の風が弱く対流雲の動きが遅いため、雨量が増えるおそれがあるので留意。
- ② 1項②の低気圧は、東北東進し4日はオホーツク海に進み、低気圧に向かって850hPa θ e345K前後の下層暖湿気が流入する。また、300hPa-30℃以下の寒気を伴うトラフが5日に北日本を通過する。下層暖湿気と上空寒気の影響で、大気の状態が不安定となり、雷を伴った激しい雨が降り大雨となる所がある。また、低気圧と日本のはるか東の高気圧との間で気圧の傾きが大きくなり、強い風が吹き波が高くなる所がある。北日本では5日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水、落雷や突風、降ひょうに注意。また、4日にかけて、強風や高波に注意。
- ③ 1項③の熱帯低気圧は、12時間以内に台風に発達し、4日にかけて小笠原近海を北上する。熱帯低気圧や台風周辺の下層暖湿気の影響で、大気の状態が不安定となり、雷を伴った強い雨の降る所がある。小笠原諸島では4日にかけて、落雷や突風、急な強い雨に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ① 雨量(06時から24時間)：関東甲信・東海100mm。

② 波浪(明日まで)：高い所(3m以上)はない。

③ 高潮(明日まで)：西～東日本では、注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。